

## 第17回ぐんま演劇人会議 議事録

2020年5月21日

### 参加者

坂川善樹（隆善舞台）

清水まさる（邑楽町民劇団（仮）楽・邑楽）

堀口知子（ザ・マルク・シアター）

大竹瑞希（田舎芝居わら座、首都圏4年制大学演劇学専攻）

木田恭平（新日本演劇）

鳴海琢元（隆善舞台）

郡司厚太（a/r/t/s Lab）

中村ひろみ（演劇プロデュースとろんぶ・るいゆ、本会世話人、司会）

加藤真史（演劇／微熱少年、文責）

※Zoomによるオンライン会議として開催

### 第一部 アンケート報告を聞いての感想と意見 19:10~20:15

去る4月27日より5月6日にかけて実施された「2020年群馬県における新型コロナウイルス(COVID19)による演劇活動の現状把握アンケート」の結果集計報告および群馬県との折衝の現状について中村・加藤・郡司より報告した。（～19:40）

上記を受けて、以下質疑応答または感想

#### 坂川善樹さん

アンケートの回答が百人といっても100通りの考え方があることが確認できた。公に出したとしても急に現状が変わるとも思えないが自分たちもどうしたいかということは確認できたのではないかと思う。この先を見据えてどうしないといけないかを考えたい。夏の甲子園も中止になった。それだけでは済まないだろう。この流れでは冬のサッカーも高校演劇コンクールも、秋から来年にかけて怪しくなってくる。「野球と平等」だと無くなるだろう。無くならなければ、演劇が簡単に考えられれていることだと思う。普段からやらないといけないということが理解されていないので、認知度を上げることや、世の中でもっと演劇が必要とされる取り組みが必要。現状では個々が弱い。組織的なところが稽古場にかわるものをもてれば交代して使える。普段稽古場に行っている公民館など公共施設は安いし使いやすいのでありがたいがこうした事態にあたり使えなくなると、弱い。フリーランス同士もネットワーク持つなり組合持つなりしないと。アマチュアにも協力してできる体制を先を見据えたことと

して取り組む必要があると思う。コロナ的な感染症はこれからもちょいちょいあるだろう。もしくは中国から新しいウイルス。国民的には衛生意識が高いが、それも他から入ってくればわからない。災害の他に疫病対策を準備したりしなくてはならない。治らないインフルエンザがあるかもしれないし。何より大事なものは舞台芸術を今後の若い人にどう伝えるかだと思うので、そこに力を注いでいければ。そのために公共が少しでも協力してしてもらえると良いし、行政だけでなく民間、例えばロータリークラブやライオンズクラブとか社長連への投げかけも有効じゃないかと思う。「協賛して文化を支援しませんか」と声掛けてみるのもありかと思う。このような意見が100以上集まることはないだろう。これをもとに演劇人会議で再度揉んでみては。

### 清水まさるさん

個人的には漫然とやっているが、展望があるわけでもない。いち個人としては今の生活破綻しないようにするしかなくて、これとって演劇活動もしていない。劇団としては、次何ができるかなと連絡とってみたいと思っているが、それも今後探る状況で「できるようになったらできればいいな」くらいの雰囲気。邑楽町町民劇団のメンバーに聞いたわけでは無いが、そういう印象。そもそも稼業が打撃を受けているメンバーもあり、それを差し押さえて劇団をどうするとは聞きづらい。公的支援は受けられればいいが、支援受けすぎると変なことしづらい。半年前には予想していない状況でまだ混乱している。困ってることは演劇については今後の予定が立たないこと。個人的には太った。

### 堀口知子さん

出来ないことで逆にエンタメの重要性を感じた。コロナだけでなく、いろんな病原菌がこれからも来るだろう。表現が今後残っていけるか心配。これが収まって、元に戻ればいいがそれだけじゃなく、新たな表現、新たな方法を拓いていくことも大事だと思っている。あとは、お金を集める仕方。オンラインとかで、そんなのが見つけられればいいなと思っている。表現でしかできないことあるので大切にしたい。なにより、安全で出来ることがあればいいなと思う。

### 大竹瑞希さん

東京は小劇場多いが、公演もできない状況が続いている。この事態が収束しないなら新しい方法を探すしかないのではないか。東京の演劇人は映像をやったり、ズーム演劇などをやっているのが多い印象。今大学3年生なので、就活にも影響してくる。将来は企画制作会社やプロデュース系の仕事をしたいと思っている。インターンシップの予定も中止になって困っている。「役者は？」という質問に対し) 役者だけじゃ自分のやりたいことと違う気がしてきている。演劇の環境を自分が整えないといけないと感じている。社会状況に対しては、やはり演劇が周知されていないと思う。演劇の重要性を見つけて、日本に切り開くことを自分でしていかないといけない。

(郡司さん退出)

## 第二部 フリートーク ぐんまの演劇人におけるコロナ禍の今と未来 20:25~21:30

### 加藤真史

コロナウイルスの収束は無いという前提に立って考える必要がある。政府専門家会議の指針や公文協のガイドラインなどに従えば、当面、可能なのは500人のホールに1/3の客などになる。今まで2000円、3000円で価格設定してきた芝居のチケットを3倍で売れるか？これは無理。ビジネスモデルそのものを変えなくてはならない。文化芸術基金を作る取り組みのシンポジウムで、暫定的な支援として公的資金を文化行政議連が1000億円規模で計上を目指している発言があった。

### 坂川さん

中村→坂川さん 群馬県の指針でいうところの緊急度2になると50人のイベントは可能になるけど、隆善舞台はやらない？

普段やっているれんが蔵でなら50人はいれば御の字ということもあって、舞台の上手下手やお客さんを囲む形で、ソーシャルディスタンスをとればいいのでうちはやれる。ただ感染者を出すと、その会場がそのあと使えなくなるだろうけど。

### 清水さん

町民劇団のお客さんは、やってもコアなお客さんでは無いのでリスクをとって観劇に足を運

ばない。ライトユーザーだと、公演したとしてもお客さんがビクビクしてるだろう。演劇の形態や客層によると思うので、一部を全体化して語れない。

## 中村

今日昼の「演劇業界の動きを伝える配信」（全国の芸術支援の現状を知るための勉強会）の中で語られていたことです。感染者が出ていない岩手県の、盛岡の小劇場である「演劇ユニットせのび」主宰・村田青葉さんが、Twitterで「公演したら来ますか」と聞いたら回答があった200人のうち、来ると答えたのは35%だけ、65%は来ないという割合だったらしい。今の雰囲気はたしかに、こういう数字なのでは無いかと思う。

東京はそれこそ当面、公演の再開ができないだろう。でもその時、地域からまずは公演をやって「演劇の火は消さない」とするのは大事だと思う。

## 加藤

（「行かない」という回答が多かったのは）自分が感染させてはいけない という気持ちが強いからだろう

## 坂川さん

当面の活動は、最初は映像見せて やれるようになって観たいとなったら生で見せるというやり方はある。そこまで1年か2年かかるだろう。前橋は小学校再開して、交代で半分ずつ登校となるので、そういう時に演劇教育とか、パフォーマーがダンス教えるとか、そういう時間あるといい コンテンポラリーダンス見せるとか啓蒙していけばいい。中学高校は勉強優先だろうが。

## 加藤

立川談志楼、大竹直が東京から稽古に来るのも大変になった。しばらく、地域間の移動ができないというのがつらい。産業構造も地域内で完結しているわけではない。県域内でも移動なしというわけいかない。

## 坂川さん

山本（前橋）市長がいろいろぶち上げているが、群馬がやって他の県が乗っかってくるかもしれないし、群馬は群馬でやれることをやればいい。

### 加藤

鳥取県、兵庫県では、コロナ禍でできなかった公演を自分たちの地域で開催される演劇祭のフリンジ枠に招待するなども検討している。

### 加藤→大竹さんに

大学で山内健司さんから豊岡国際演劇祭のことなどを聞いていないか？

### 大竹さん

豊岡のことは去年8月平田オリザさんのシンポジウムでは聞いたがその後は聞いていない。

### 坂川さん

今は、地域の中で完結するのでいいと思っている。広げる必要はない。移動できる範囲の人が集まってやればいい。群馬のミュージカルなどはある種特異なので、他の地域でも真似してやりたい人達いるかもしれない。

### 中村→大竹さんに

どんなふうに演劇の環境を整えたいの？

### 大竹さん

演劇芸術応用論という講座をとって、演劇が授業に必要と言われているけど、本当に必要なかなって思い始めている。イギリスとかの例はわかるのだけど、それでは日本で演劇をどのように取り入れるの？演劇ってなんなの？と考えてしまう。（加藤「ドラマダークの仕事はソーシャルベースですという意味？」）そう。環境問題を演劇を通して考えると、紛争地域で相対する子供たちと演劇するとか、そういうことに意義があるのでは無いかと思いつ始めている。（加藤「高遠菜穂子さんがイラクで元ISの子ども達に演劇WSをしている」、中村「昨春、群馬でアフガニスタンの演劇を上演した」）

### 大竹さんの疑問を受けて→加藤

答え的なことを言うのは簡単だけど、では演劇は必要なのかと言われれば必要ないということも正解だと思う。芸術は人間の社会の原初的なコミュニケーション手段ではあるけれど、ではコミュニケーション教育を牽引する平田オリザがうまくコミュニケーションとれてるのかと言われればそれはまた別の話になる。

**大竹さん**

役に立つのか立たないのかというのは気になる。

**加藤**

大竹さんは、菅原直樹さんがやっている「演劇と介護」とかそういうのがやりたいのかな？

**堀口さん**

演劇は手段の一種と思う。講演会じゃ伝わらないこともある。菅原さんには私も興味を持っていた。私も介護福祉士なのでF Bで友達申請した。演劇の舞台に立つことでなくその先がゴールだと思う。

**坂川さん**

各々の得意分野で生かして今の日本を盛り込んで世界に発信できればいいと思います。

以上